

第 1 回	栄養の消化と吸収 1 一口から食道までの構造と機能ー
第 2 回	栄養の消化と吸収 2 ー腹部消化管の構造と機能（口腔から胃まで）ー
第 3 回	栄養の消化と吸収 3 ー腹部消化管の構造と機能（小腸から肛門まで）ー
第 4 回	栄養の消化と吸収 4 ー肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能ー
第 5 回	内臓機能の調節 1 ー自律神経による調節ー
第 6 回	内臓機能の調節 2 ー内分泌系による調節ー
第 7 回	内臓機能の調節 3 ー全身の内分泌腺と内分泌細胞ー
第 8 回	内臓機能の調節 4 ーホルモン分泌の調節ー
第 9 回	情報の受容と処理 1 ー神経系の構造と機能ー
第 10 回	情報の受容と処理 2 ー脳の高次機能ー
第 11 回	情報の受容と処理 3 ー運動機能及び感覚機能の伝導路ー
第 12 回	情報の受容と処理 4 ー感覚器と疼痛ー
第 13 回	生殖・発生と老化の仕組み 1 ー男性及び女性生殖器ー
第 14 回	生殖・発生と老化の仕組み 2 ー受精と胎児の発生ー
第 15 回	外部環境からの防御 ー生体の防御機構ー
テキスト	坂井建雄他 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1（医学書院）
参考図書・ 教材／デー タベース・ 雑誌等の紹 介	坂井建雄他監訳 「プロメテウス 解剖学アトラス」（医学書院） 小澤澗司他監修 「標準生理学」（医学書院） 藤田恒夫他著 「標準組織学 総論」「標準組織学 各論」（医学書院） 小学館の図巻 NE0 「人間 いのちの歴史」（小学館）
課題に対す るフィード バックの方 法	授業の終わりに毎回小テスト（評価対象としない）を行い、授業の中でそれについての解説を行 う。
学生へのメ ッセージ・ コメント	・前期で解剖学を履修していることが望ましい。 ・前期で履修した解剖学の内容を復習し、臓器の位置関係と簡単な機能を復習しておくこと。

それぞれの器官を結びつける神経系と内分泌という2つの調節機構について主に学びますが、内容が多岐にわたり、講義時間だけで完全に理解できるようになるものではありません。予習・復習により、ひとつひとつの内容を自分で吟味し、頭の中で体系づける地道な努力が必要です。

・講義では配布資料を配ります。配布資料は教科書の図の説明です。配布資料を忘れても教科書に書き込めばカバーできるようになっています。

・講義や実習内容の中で興味を持った事柄について、まずは教科書をよく読み、キーワードの周辺にそれを理解する説明があるかどうかを探してください。その他、参考書を読んだり、インターネットで調べたりといった「自学自習」の習慣を身につけてください。

・インターネットを使って検索するというのは重要なスキルではありますが、最初から検索しないよう心掛けてください。

